

勝林寺寺報

上のくだたりのない無土栽培

普通、一般的の社会（ことに田舎）では、床に近いほうが上座、というとりきめのようなものがあり、今でも正式な宴席などではこのしきたりが厳格に守られています。

ところが、少くとも浄土真宗のお寺では、開法の座に、上席・下座などという区別は全くないのです。仏様のいらつしやる内陣に近い方が上座なら、お寺では、たとえば社会的な地位の高低などによつて、きちんとお参りに来た人の座席が決められてあるはずです。ながく男尊女卑ということで女性の地位が軽んじられていた封建的な歴史からすると、老婦人が上座につくのはとても考えられないことです。

冊の名簿があります。『親鸞聖人門弟交名帳』といいます。これは、関東時代の親鸞聖人に直接おしえにあづかつた門弟四十八人が名をつらねてある名簿です。

ちなみに、この時期、名前のわかつてゐる親鸞さまの門弟は、この『交名帳』の四十八人を含めて七十人・念佛同行の数は十万人を越えていたと推定されています。

この『交名帳』には、法名と地名だけが記されていて、当時の職業や身分には一切ふれられてはいません。宗祖の門弟は、農民を中心に、少数の武士や商人などで構成されましたが、中世封建社会のなかにありながら、その所属する地位や身分が全く問題にされなかつたのです。聖人の門弟がたは、互に「同朋・同行」とよび合つたと言います。「御同朋・御同行」です。これが今日の浄土真宗のお寺を中心とした「同行」の集まりのもとのかたちです。人々が集まるための準備や運営は、門徒が話し合い・経済的にもみんなが負担しあうという方法も、八百年かかるほつた、この時代から続いているかたちです。

正 矢 櫻 出 八 鹿 石 見 根 法 尾 寺

総代は、「運営規定」によつて定員六名・任期は四年となつています。旧総代は、任期中、本堂内陣外陣の格天井工事など大事業推進にご苦労くださいました。退任に当たり代議員から感謝決議が出され可決されました。新たに選任された総代は左の通りです。

門徒総代改選される



今年も例年通り、総代会で立案した議案書を「勝林寺寺報（臨時号）」として一月二十五日全戸配布し、地区ごとに代議員がまとめたうえで開かれた代議員会でありました。

三重の「新み

主に住職から詳細な報告説明や提案理由がおこなわれ、すべての議案について原案通り承認可決をされました。ただ、基本財産会計に関する「本山法要懇志」については経常費等級の通りに集金するが、その場合生じた余剰金は基本財産会計に収入することを附帯決議いたしました。

また、当日提案のあった書院便所の水洗化改修工事については基本財産会計を行なうことは認めたが、工事推進については研究不十分であるため研究・実施は総代会の検討に委託した。

教化の面については特に、老齢者への取り組みと同時に若年者へのたらきかけ（仮前結婚式の奨励など）についての意見や要望が活発に出されました。

仏壯だより
勝林寺

二月二十一日、午前中「理事会」、午後「総会」をもつて年間の会計や行事を決めてもらいました。

勝林寺伝教育壯年
會長 平野

•彼岸会案内

お日さまが真東から出て真西へ沈む。一年に二度のこの日は、太古の人々にとつて「生活のケジメ」の日であつたのでしよう

のうちに仏教の「中道」という、有にも無にも執われない生きかたを象徴すの日という意味 加わり、さらに、執着のまよいの世界を超えて、すべてから解きはなされた真に自由なさとりの浄土を願う思いも加わつて、この彼岸会がいとなまれるようになつたのでしよう。

人生のより所を、共々に聞きましょう

二十九日	出石紅葉旗娘人会（正當会）
十六日	十六夜会（西方寺）
十八日	基幹運動本部専門部会（本山）
二十日	浜明男氏宅法事
二十一日	永井貞雄氏宅法事
二十三日	「彼岸会」
二十五日	仙壯・仏婦合同役員会 みのりを開く会
二十六日	山田恵一氏宅法事
二十七日	本覚寺法事・山山豊氏宅法事

十四日	岐阜教区建研研修会 （本山）
十三日	教区企画推進室會議 （神戸）
十二日	原田則昭氏宅法事
十一日	教区研修資料作成委員会 （神戸）
十日	光顯寺前坊守一周忌・下日会 （本覺）
九日	生田善七氏宅法事
同	田中重雄氏宅法事（栗尾）今井武 夫氏忌明
八日	教区基幹運動推進委員研修会 （神戸）
六日	教区企画推進室會議 （神戸）
四日	教区企画推進室會議 （神戸）
二日	教区企画推進室會議 （神戸）

弥助じいさんのこと

あとからわかつたことですが、おじやんはどうやら九州も博多地方の出来ではなかつたのでしょか。というのは、よく孫たちを遊ばせたり寝かせつけたりするときに、おじやんはホレあの「オロロン オロロン オロロン バイ」という歌を口のなかでモゴモゴうたつていたのです。あの「博多の子守唄」が、最近一般にうたわれるようになつてから、アーニあれだつたのか、じいちゃん・博多の子守唄「うたづてたんだ、とわかつたのです」が、しかし、おじいちゃんの歌は、それとはちよつとだけ違うところがおつたのです。

なんだかしらないが、歌のあとにお念仏がはいるのです。
「はよ寝ろ 泣かんで オロロンバイ。 オロロン オロロン なんなんだ」という具合です。

九十四歳で死ぬるまで、病氣ひとつせず、お寺参りだけが楽しみで、私をち孫にもお寺で聞いてきたお話を、よくなり次いで話してくれました。

弥助じいさんは、大正のはじめ、遠い九州からこの地へ出働きに来ていて、縁あつてこゝのおばあちゃんの入り婿になり、ますますしあわせな一生を過せた人でした。途中一度戦争にとられはしましたが田畠財産もそこのそこに増やし、子ども五人を産んで育てました。

いちはんのしあわせは、その五人の子が、みな近くに住んでいて、従つてその子どもたちにできた：十人近い種たちに、じいちゃんじいちゃんと慕われながら晩年をすごせたことでした。

二月十四日 ターナの日「一夜たきり」の
旧仏婦会員を、お宅や養護老人ホームにお見舞い致しました。会長のお見舞のことば・ご院家様のテレホン法話・お正信偈の録音テープと坊守様手づくりの「きんかんの甘露煮」を持参しました。会長の挨拶を掲げます。

仏婦だよ

お念佛といふのは、如来さまのお手もとから、次々に、お釈迦さま。そして次々に伝えられ、親鸞さまから弥助じいちゃんへ。ずっと連続して断えることなく大切に手わたされ、そして念佛の人弥助じいちゃんから、私たち孫の孫をちまではたらいでくださつてゐる、どうらいおめぐみなのだつたのだと、このごろ思はせていただいております。

九州博多で、おじいちゃんはお念佛に育てられていたのでしよう。その九州博多じこみのお念佛で、私をち沢山の孫たちも育てられたようと思ひます。

今年は、あたたかな冬で暮しやすいと
よろこんでいましたのに、急にドツと雪
がきまして、やはり但馬の冬らしいこの
ごろでございます。

おからだのこ様子はいかがでござい
すか。この寒さで、あちこちが痛かつた
り、からだの不調に苦しんだりなさつて
いるのではないでしようか。

今日は「ダーナの日」ということをご
縁にして、私たち勝林寺仏教婦人会が久
々にお見舞にあがらせていただきました

「ダーナ」と申しますのは、布施、ま
たは「めぐみ」・「ほどこし」という慈
味のこととばだそうでございます。

私たちは今、ますます健康めぐまれ
沢山の人々からご恩をほどこされて、そ
の中であわせに過させていたゞいてお
ります。

それよりも何よりも如来さまの量りし
れないおめぐみを、南無阿弥陀仏という
お呼び声のなかにはどこされている身と
よろこばせていただいております。

あなた様が、かつて勝林寺仏教婦人会
員として、私たち子や孫に、お念佛の川
を伝えるためおはげみ下さったそのご恩
のおめぐみを、私たちは今、ほんとにも
つたいなく思うのでございます。

あなた様のめぐみ・ほどこしのなかで
育てられた私たちでございます。

せめては一年に一度でも、そのめぐみ
に感謝ご報謝申さねばと、私たちは「め
ぐみの日・ダーナの日」を決めさせてい
たゞいたわけでございます。

かと申して、感謝を表わすことばに迷
うほどの私たちでございます。お見舞の
ための適当な品もとゝのえられない私た
ちでございます。こゝに、ご院家様のご
法話のテープを持参いたしました。どう
ぞ、このご法話のなかに、老に苦しみ病
に悩むあなたをこそと、今もはたらき続
けてくださる如来さまのめぐみの呼び声
をお聞きいただき、その如来さまからは
どこされた一日一日のあなたのよいのち
を、大切においといいただきますよう念
じ申しあげます。

佐田 奥栗尾 口栗尾 正法寺 小谷 口小谷 保谷 奥小谷 東里 大田 唐川 出合 市場 日殿 矢根 野尻 坂野 野百合 櫻和百合 坡坂 石坂 口暮 片間 中山 田

石 浜田 足水 立古 成平 坂坂 湯横 成谷 坂奥 山衣 金永 森横 坪初 坪森 岸蔭 宮宮 数兼 兼石

田 本立 嶋脇 田田野 本口 山田 原本地 田川 久井 井山 木田 木戸 下山 嶋嶋 蘭井 井田

元精耕 捷稔 貢政 良守 保富 喜彥 博喜 繁孝 勉豊 信寿 隆国 豊克 真達 三太征巖

高士 勉富 喜元 三門 雄一 横江 俊一 一級 並木 一郎 二郎

昭和六十三年度の代議員は左の通りです。なにかとお世話になります。代議員会で話し合っていたときました線にそつてよろしくお願ひ申します。

A simple line drawing of a rectangular handbag with a shoulder strap and a small chain-link charm hanging from the handle.